

報道関係各位

三菱地所株式会社  
社会福祉法人東京コロニー

**障がいのある子どもたちの絵画コンクール  
「第14回キラキラとアートコンクール 優秀賞作品展」開催  
～10月30日（金）より横浜会場からスタート～**

三菱地所株式会社は、10月30日（金）から来年2月にかけて、全国6会場にて、「第14回キラキラとアートコンクール優秀賞作品展」を開催します。

「キラキラとアートコンクール」（後援：文部科学省・全国特別支援学校長会）は、障がいのある子どもたちの可能性を応援したいとの思いから、国内初の障がい者アートライブラリー「アートビリティ」<sup>※1</sup>を運営する社会福祉法人東京コロニーの協力を得て、2002年にスタート。「アートビリティ」の登録作家として現在17名が活躍するなど、子どもたちの才能を支援してまいりました。

※1 アートビリティ・・・1986年に社会福祉法人東京コロニーが設立した障がい者アートライブラリー。現在約200名の作家による約4,000点の作品がストックされ、印刷物等の媒体に貸し出されています。

本作品展は、14回目を迎える同コンクールの全応募作品1,725作品の中から、審査会（1次審査・三菱地所グループ社員審査・本審査）を経て選ばれた優秀賞51作品を展示するものです。

各会場では、思いのままに、自由に描いた個性豊かな子どもたちの作品に対し、来場者からメッセージを受け付け、今後の励みにつながるよう、表彰式で子どもたちにお渡しします。尚、メッセージを記入頂いた来場者には、本コンクール第13回優秀賞作品を使用して、社会福祉法人東京コロニー在宅就労グループ「es-team（エス・チーム）」<sup>※2</sup>がデザインした「シール」をプレゼントします。

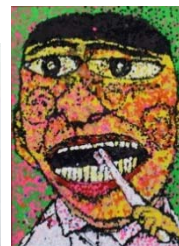
※2 es-team・・・社会福祉法人東京コロニー職能開発室が2000年4月にスタートさせた在宅就労（SOHO）グループ。東京コロニーが情報処理部門設立から20年間培ってきたIT技術と在宅就労に関するノウハウをいかし、働く障がい者のネットワークを結成して運営支援を行っている。

また、本コンクールの応募作品はこれまで、様々な企業の冊子の表紙やカレンダーなどに使用されています。子どもたちの感性にあふれたのびやかな作品は、審査会、作品展、作品使用等を通じて、多くの方に感動を与えています。

三菱地所では、本コンクールが障がいのある子どもたちの優れた才能を評価・発掘・展示する機会となり、芸術活動の裾野が広がることを願い、応援してまいります。

優秀賞・全応募作品を下記ホームページにて公開しています。

キラキラとアートコンクールホームページ <http://www.kira-art.jp>



## 1. 開催概要 (予定)

- ①名称：第14回キラキラっとアートコンクール優秀賞作品展
- ②日程：**【横浜 ランドマークプラザ 3階イベントスペース】**  
2015年10月30日(金)～11月1日(日) 11:00～18:00  
横浜市西区みなとみらい2-2-1
- 【大阪 OAPタワー 1階エントランス】**  
2015年11月12日(木)～11月15日(日) 10:00～18:00  
大阪市北区天満橋1-8-30
- 【札幌 マルヤマクラス 2階イベントスペース】**  
2015年12月11日(金)～12月13日(日) 10:00～20:00  
札幌市中央区南1条西27丁目1-1
- 【福岡 イムズ 地下2階イムズプラザ】**  
2016年1月9日(土)～1月11日(月・祝) 10:00～18:00  
福岡市中央区天神1-7-11  
※展示は1月17日(日)まで。上記期間中はメッセージを受付いたします。
- 【仙台 泉パークタウン タピオ 南館1階ノースコート】**  
2016年1月22日(金)～1月24日(日) 10:00～20:00  
仙台市泉区寺岡6-5-1
- 【東京 丸ビル 1階マルキューブ】**  
2016年2月18日(木)～2月21日(日)  
11:00～19:00  
千代田区丸の内2-4-1



(第13回ランドマークプラザ)

③入場料：無料

④本コンクール概要：

- ・応募資格：何らかの障がいのある応募年齢18歳までの幼児・児童・生徒
- ・応募期間：2015年7月1日(水)～9月16日(水)
- ・応募作品：課題は自由。水彩、油絵、版画、パステル、鉛筆、貼り絵、切り絵など平面表現のもの。  
サイズは最大で60cm×50cm以内(最少はA4サイズ程度)
- ・審査：1次審査・三菱地所グループ社員審査・本審査を経て優秀賞を決定
- ・表彰式：2016年2月19日(金)東京・丸ビルホールで開催  
審査員より賞状と優秀作品画集を贈呈

## 2. 審査員講評

### ■O JUN氏(画家・東京藝術大学教授)

今年も全国からたくさんの応募があった。コンクールということで入選作品を選ぶわけだが、惜しくも選外になった作品とどれほどの差があるのかといえば、実はないのだ。ではどのように選び取っているのかといえば、私は一瞬にして目を撃つ作品と繰り返し見ているとじっくり見えてくる作品だ。作品はどれも伯仲している。

昨年は数点だが、強く印象に残る作品があった。いずれも“さみしい絵”“孤独な絵”だった。色彩豊かで描き込んでいる絵の中であって、しんとした空間が目を惹いた。

今年はそういう絵が見当たらなかった。これは望ましいことなのかそれとも残念なことなのか。応募の段階で学校や教室と私たちの選考で彼らの作品は数度のフィルターを通過してきている。私たちは、作品を見る自らの目をいつも見返していようと思う。そういう中で一つの学校から応募された作品が印象に残った。どの作品も描く人の“私は、これを、こう描きたい!”という思い

に溢れ、それに見合う画材と技術が効果的に使われている。個々の資質との向かい方や場を作る努力をされている先生やスタッフを想像する。教室の空気がよほど気持ちよいのではないか。

#### ■青柳 路子氏（茨城大学准教授、東京藝術大学非常勤講師、教育学研究者）

コンクールに応募された作品は、今年も、ひとつひとつに個性と魅力があふれていました。この絵を描いたのは楽しかったらうな、ここは工夫して描いたのたらうな、こだわって描かれているな。作品をみていくなかで、子どもたち一人ひとりの、描いている様子が想像させられました。描くこと、作ることによる子どもの表現は、子どもたちのもつ世界、見えている世界が線や色、かたちにのせて現れ出たものといえます。子どもたちが存分に表現できるように、傍らには特別支援学校の先生、絵画教室の先生、保護者の方々がいらして支えられていることも、それぞれの作品から感じさせられました。

コンクールに応募された作品は、すべて web 上で見られます。惜しくも優秀賞に選ばれなかった作品にも、力作がたくさんありました。ご関係の皆さまに限らず、より多くの方々に応募作品を見ていただけるように願っています。

現在、障がいをもつ方のアートを推進しようと、各地でさまざまな取組が行われており、国も施策を展開しています。障がいをもつ方のアート推進のためには、子どものころから描いたり作ったりする楽しさや喜びを感じられる経験、それを大事に育み支えていく環境が必要だと、私は思っています。いえ、むしろ、子どものころからアートによる表現を積み重ねていくことができ、それができる環境が充実しているからこそ、障がいをもつ方のアートは推進されていくというのが、より正確な思いです。コンクールに応募した子どもたちが、これからも喜びをもって絵を描き続けていけますように、願ってやみません。

#### ■西田 克也氏（西田克也デザインオフィス グラフィックデザイナー）

今回も応募作品の質の高さに圧倒されながら、優秀作品を選んでいくワクワク感と、選べないもどかしさの狭間で、ふと 14 年前の第 1 回のキラキラの審査のことを思い出した。アートビリティの登録審査を長年やっていて、キラキラの誕生から関わっているという理由で多分審査委員に選ばれたと思うが、実際に応募作品を前にすると、一介のデザイナーに過ぎない僕なんか子どもたちの絵を純粋にアートとして審査できるの？と怖じ気付いたりして...が、引き受けた以上はやるっきゃないと大袈裟だけど不退転の決意で審査に臨んだ。キラキラの絵の魅力はその形や色彩の自由さ、発想のユニークさ。僕たちが大人になっていく中で身につけてしまった常識という固定観念をもの見事に打ち破ってくれる痛快さに尽きる。だからやっぱりキラキラを愉しまなくちゃねと、第 14 回目のキラキラも不退転の決意で臨んだのでした。

#### ■高橋 宏和氏（社会福祉法人東京コロニー アートビリティ代表）

応募のあった 1,725 作品、すべての作品に応募者の思いが込められていました。毎年、審査をする時に大切にしているのが作品に表現されている思いを感じる事です。

思いを自由に表現できる絵という表現方法で、どのような作品と出会えるか毎年楽しみに審査に参加しますが、今年もユニークで個性的な作品が多く集まりました。楽しんで描く、一生懸命描く、絵を描く上で大切な事が表現出来ている作品が多く審査は非常に悩みました。

これからも更に多くの作品が寄せられ、記憶に残る作品と出会えることを楽しみにしております。

#### ■杉山 博孝（三菱地所株式会社 取締役社長）

昨年より、障がい者芸術に造詣の深い O JUN 氏、青柳路子氏に審査に加わっていただき、西田氏、高橋氏と共に新たな体制で選定をしております。審査の視点が変わったことと作品全体のレベルアップにより、昨年の優秀賞作品展の会場では、個性豊かな作品が増えたとの評価を数多くいただきました。

第 14 回となる今回は、全国から 1,725 点もの応募をいただきました。その中から 50 作品を選ぶ

ことは非常に困難で毎回頭を悩ますのですが、今回は最後の1作品がどうしても絞り切れず 51 作品を優秀賞として選定致しました。

また、当社グループの社員も投票に加わっているのですが、毎年応募される特定の方の作品を楽しみにしていたり、離れた職場から投票に駆けつけたりと、社員の間でもすっかり定着した感があります。

これからも本コンクールは、応募者の皆様、審査員の方々、作品展をご覧になる各会場のお客様と三菱地所グループの役員・社員が力を合わせて作り上げて、その価値を高めていくコンクールでありたいと願っております。

#### ■高橋 明也 (三菱一号館美術館 館長)

数年来審査を続けてきて、今年はとりわけ応募作品のレベルが高くなったように感じました。列車の車種の変遷を丹念に描いたもの、下塗りをした上に油絵具の別の色を重ね、その効果を確認かめるように描いたもの、対象を丹念に観察しているのが観る者に伝わってくる等々といったように、それぞれが描く対象や画材との対話について、思い思いの世界や技術を追及しながら描いているようです。その追及が良いように伸ばされて、深く遠くに届いているように思える作品が数多くありました。それは個々の努力や的確な指導の賜物であったり、制作現場の雰囲気の影響であったりするのでしょうか。それらによって高いレベルが達成されているのだとしたら好ましいことです。

審査をするのは、素敵な作品を見付け出すことでとても楽しいのですが、その一方で選に漏れた作品が残されます。それらのなかにも魅力的なものがたくさんあったことは残念でした。審査にはどうしても選ぶ者の好みも反映されてしまいます。しかし実際にはどの作品にも観るべきものが含まれているのでしょうか。受賞作品は選ばれた質の高い作品ですが、それはそれとして、別の魅力を、今度は観客の皆さんに見出していただきたいと願っています。

以上

《審査会の様子》

■1次審査（2015年10月5日）



■三菱地所グループ社員審査（2015年10月6日～8日／3会場）



■本審査（2015年10月9日／三菱地所本社にて）

